


質の高い教育・保育の実現に向けて ～高知県の取組から～



高知県教育委員会事務局幼保支援課

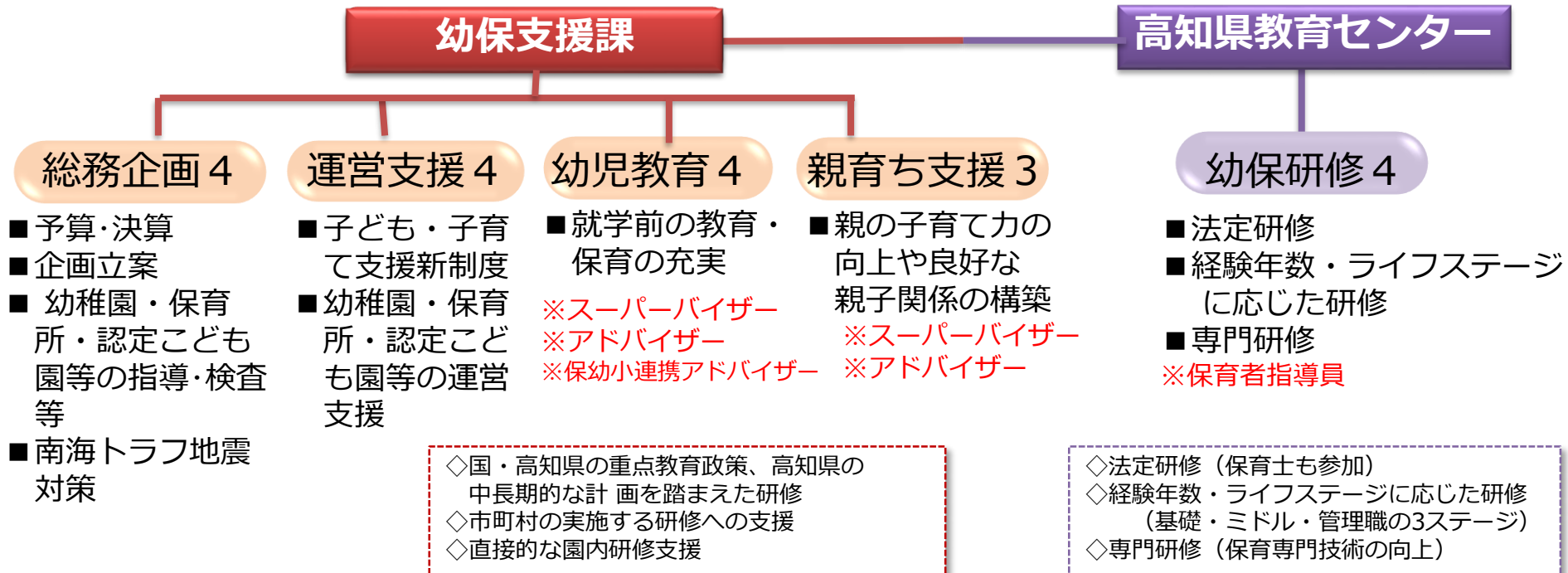


高知県の乳幼児期の教育・保育の推進体制

◆ 行政窓口の一本化と組織体制

平成15年4月に幼稚園・保育所、市町村が制度の違いを乗り越えて、**「子どもの健やかな育ちのために、どこにいても質の高い教育・保育を受けることができるよう、就学前の教育・保育の充実を図る」**ことを目的に、高知県教育委員会事務局に幼保支援課を設置し、それまで別々であった**幼稚園、保育所の行政窓口の一本化**を行った。

これに伴い、高知県における幼稚園教員、保育士等に対する研修は、幼保支援課と高知県教育センターにおいて実施されている。さらに、平成21年度より親の子育て力の向上や良好な親子関係の構築のために「親育ち支援チーム」を設置した。



◆ 第2期教育等の振興に関する施策の大綱

◆ 第3期高知県教育振興基本計画

R2年度～R5年度

基本 理念

- ・ 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち
- ・ 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材

主な施策

～就学前から高等学校までの各段階に応じて切れ目のない対策を実施～

～6つの基本方針～

- (1) チーム学校の推進
- (2) 厳しい環境にある子どもたちへの支援や子どもの多様性に
応じた教育の充実
- (3) デジタル社会に向けた教育の
推進
- (4) 地域との連携・協働
- (5) 就学前教育の充実
- (6) 生涯学び続ける環境づくりと
安全・安心な教育基盤の確保



主な施策

～県内どこにいても質の高い教育・保育を受けることができる環境づくり～



6つの基本方針と2つの横断的取組

基本方針



就学前教育の充実

背景

- ・乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であり、この時期に質の高い教育・保育を受けることが、子どもたちの知・徳・体の調和のとれた健全な成長にとって極めて重要

ポイント

- ・全ての保育所・幼稚園等において、専門的で高度な知見に基づく質の高い教育・保育を受けることができる環境づくりを進める
- ・乳幼児期における、よりよい親子関係の構築を図るため、親の子育て力を高めるための「親育ち支援」の取組の充実を図る

V-1 就学前の教育・保育の質の向上

■ 保育所保育指針・幼稚園教育要領等に沿った指導方法の徹底

- ・幼保支援アドバイザー等による訪問指導や研修等を通じた「高知県教育・保育の質向上ガイドライン」、「保育所・幼稚園等における園評価の手引き」の活用促進、園内研修の充実
- ・保育者の職責に応じた専門性や実践力向上のための研修の充実（基本研修、キャリアアップ研修）
- ・保育士資格取得を目指す学生等への保育士修学資金等の貸し付けなど、保育士確保に向けた取組の推進

■ 保幼小の円滑な連携・接続の推進

- ・各地域の実態に応じた接続期カリキュラム等の実践・改善の取組の推進
- ・保幼小の連絡会、交流活動の充実
- ・入学時の課題への対応の充実
- ・モデル地域の取組への支援と成果の普及



幼児と児童の交流活動

組織マネジメント力の強化

- ・園評価の手引きの活用

保幼小の円滑な接続の推進

- ・接続期カリキュラムの実践・改善

幼保支援アドバイザー等による訪問指導



保育所・幼稚園等



小学校

具体的な指導方法の徹底

- ・ガイドラインの活用

保育者の資質・指導力の向上

- ・研修内容の充実

＜質の高い教育・保育を受けることができる環境づくり＞

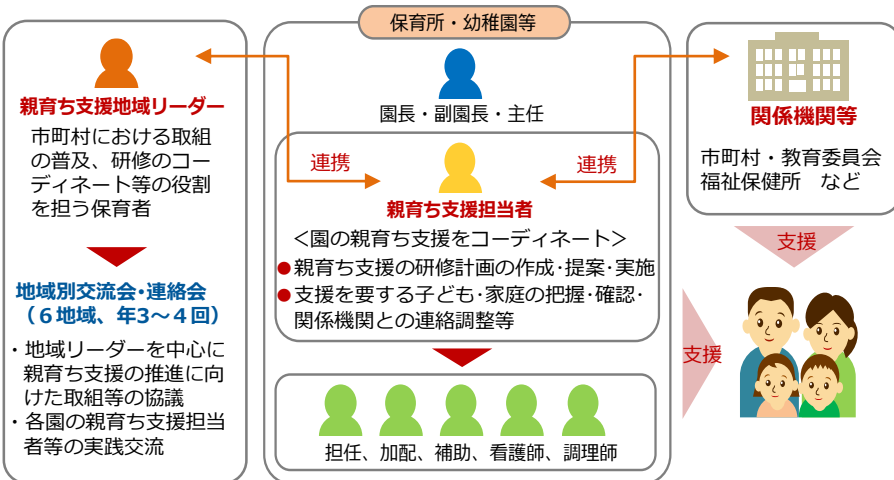
V-2 親育ち支援の充実

■ 保育者の親育ち支援力の強化

- ・保育者の親育ち支援力向上のための園内研修、市町村単位の合同研修等への支援
- ・親育ち支援地域リーダーを中心とした地域別交流会・連絡会の充実に向けた支援
- ・全ての保育所・幼稚園等における親育ち支援担当者による園内の保育者研修や保護者向け研修等の計画的な実施の促進

■ 保護者の子育て力向上のための支援の充実

- ・保育所・幼稚園等が行う保護者を対象とした学習会の開催や、基本的な生活習慣の定着に向けた取組への支援
- ・就学時健診等の機会をとらえた講話の実施や、園の行事等と合わせた保護者研修の実施など、保護者が参加しやすい環境の整備



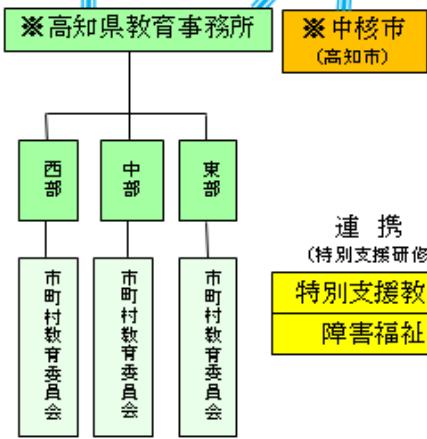
＜親育ち支援の推進体制＞

高知県の取組 ～幼保支援課の取組～

高知県教育委員会事務局

※小中学校課
※幼保支援課

※高知県教育事務所
※中核市 (高知市)



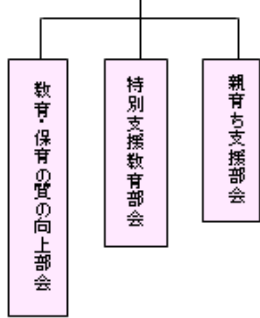
連携 (就学前教育全般)

地域の実態に応じた情報提供
 幼保支援アドバイザー(29名)
 保幼小連携アドバイザー(5名)
 親育ち支援アドバイザー(17名)

※高知県教育センター
 保育者指導員(17名)
 受講状況等についての情報提供

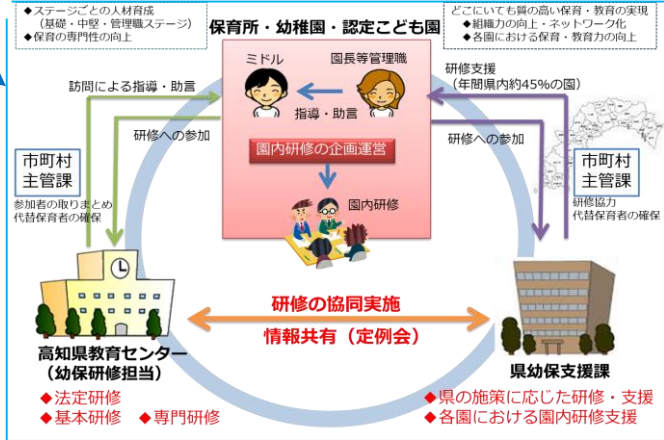
保育所・幼稚園等すべての施設を対象とした研修全般
 ・基本研修
 ・専門研修
 ・キャリアアップ研修

高知県幼保推進協議会 (市町村・関係団体)



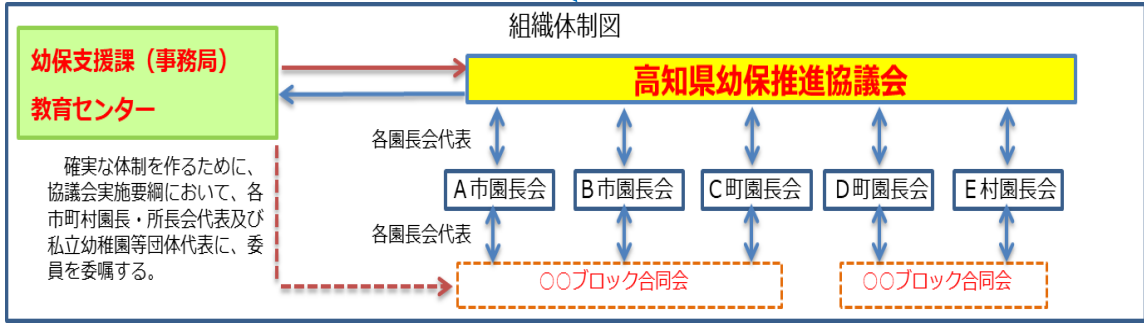
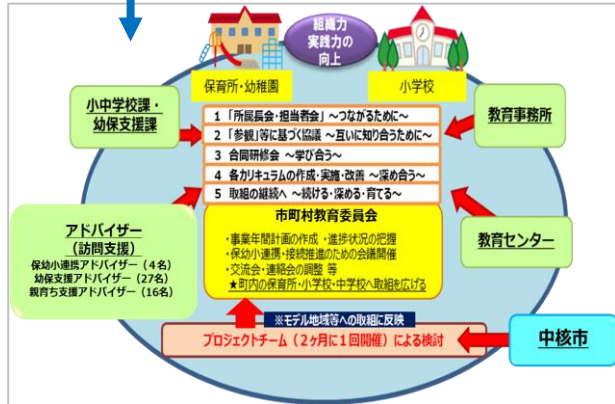
(各委員)
 ・質向上委員会での意見について所属母体である市町村・団体で協議
 ・各幼稚園・保育所等からの意見集約

連携 (特別支援研修)
 特別支援教育課
 障害福祉課



- ・接続期カリキュラムの実施・改善
- ・ねらいをもった幼児・児童の交流活動の実施
- ・連絡会等による教職員相互理解
- ・取組成果の普及(各研修会やホームページ)

※保幼小連携・接続プロジェクトチームのメンバー
 ○ 事務処理及び会計処理等に関する事項について
 高知県教育委員会事務局幼保支援課が担当する。

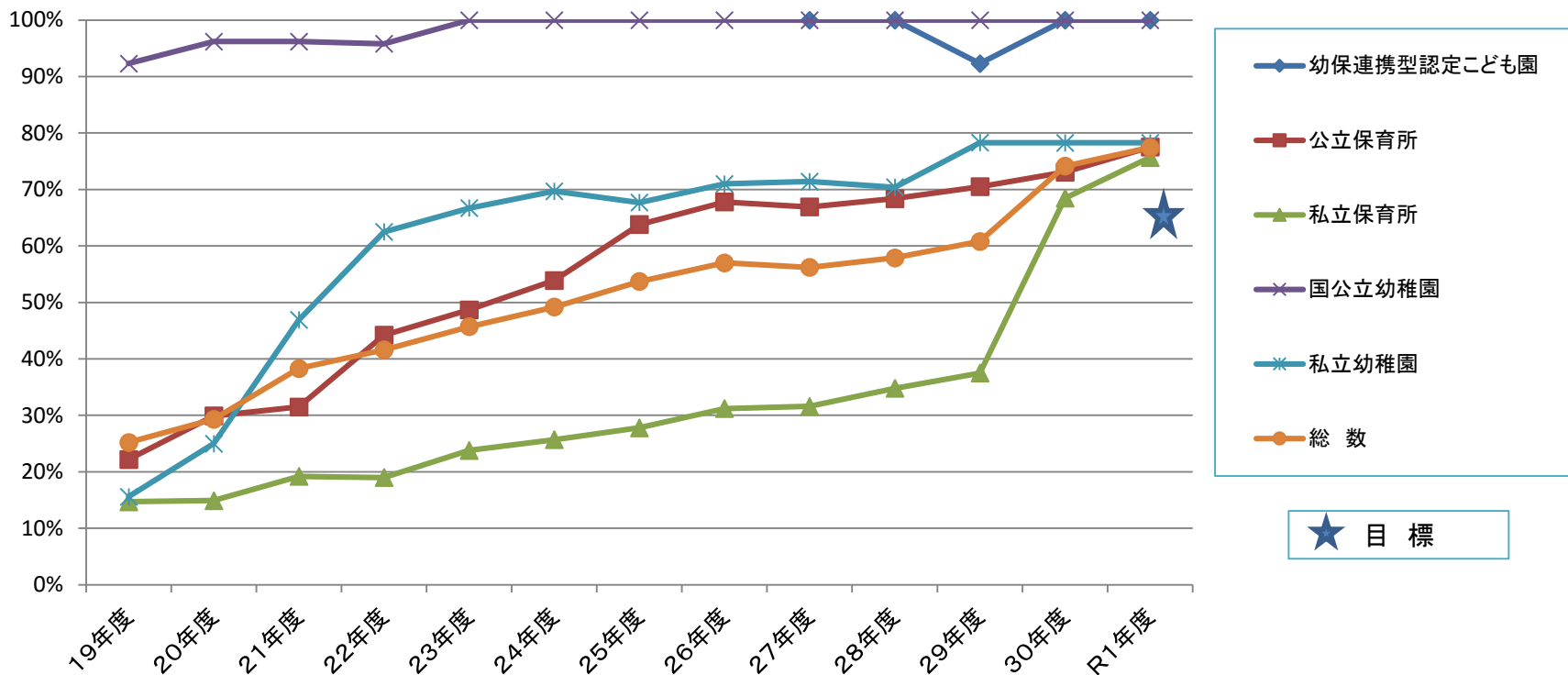


≪幼児教育≫

幼児教育の主な事業：幼稚園教諭・保育士等の資質・専門性の向上を図ることで、どこにいても質の高い教育・保育を受けることができるようにする。

主 な 事 業		事 業 概 要
園内 研修 支援 事業	①園内研修支援	自主的・計画的な園内研修が行われるようにするために、幼保支援課指導主事、幼保支援アドバイザー等を派遣し、幼稚園・保育所等が実施する園内研修等の支援を行う。
	②ブロック別研修支援	ブロック内における主体的な実践研修のためのネットワーク化の推進と、園内研修の企画・立案・運営を行うミドルリーダーを育成するために、県内13ブロックにおける「ブロック別研修会」を開催する。
	③13ブロック交流会	ブロック研修会の充実を図るため、「ブロック別研修会」実施園26園が一堂に会し、自主的・主体的な園内研修の在り方について協議を行う。
	④高知県幼保推進協議会	県の施策についての協議を深め、協力体制を構築することにより、どこにいても質の高い教育・保育を受けることができる環境の充実を図るため、各市町村で組織されている所長・園長会の代表者及び私立幼稚園等の団体代表からなる「高知県幼保推進協議会」を開催する。
幼児教育推進体制の充実・活用強化事業		幼稚園・保育所等の組織力・実践力の向上を図るため、策定した教育・保育の質向上ガイドラインの活用を促進し、園の組織マネジメントが効果的に推進する仕組みを構築するとともに、保育者育成指標に基づいた人材育成研修を実施し、人材育成の強化を図る。また、小学校への円滑な接続に向けて、策定した高知県保幼小接続期実践プランを周知し、各小学校、幼稚園・保育所等における実践プランの作成を支援する。
幼稚園教育理解推進事業		幼稚園教育要領の周知を行う中で明らかとなった課題の中から国が協議するテーマを設定し、毎年各都道府県ごとに協議会を開催する。さらに、その結果を全国協議会において検証していくことにより、幼稚園教員等の幼稚園教育要領に対する理解を深める。
保幼小連携・接続推進支援事業		幼児期の教育・保育への理解を深め、幼児の学びをつなぐために、それぞれの地域の実態に即した保・幼・小接続を支援し、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図る。

◆ 園内研修支援の推移【累計】



◆ アドバイザーの配置数・支援回数

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
配置数	—	—	3	3	4	5	5	4	6	7	7	11	14	14	22	27
支援回数	33	88	74	96	107	147	147	189	212	211	226	217	240	247	385	348

◆ 園内研修支援の内容例

実践に基づく研修

◆ 保育参観・協議

実際の子どもの姿を基に協議を行い、明日からの保育の在り方を考えます。

◆ 写真・ビデオカンファレンス

保育場面の写真や映像を使い、具体的な振り返りを行います。

◆ KJ法

研修課題について、自身の意見を付箋紙に書いて互いに聞き合い、参加者みんなで園の保育を考えます。

◆ 研修時間の工夫

多くの先生方が参加できるように、時間のもち方を工夫することもできます。

◆ 他園への視察

他園での園内研修への参加や、学びたい視点に合わせて保育参観・協議をします。

◆ ガイドライン、接続期実践プラン、園評価の手引き、指導計画・園内研修の手引き（改訂版）の活用

- ・ ガイドラインの自己課題発見シートやキャリアステージにおける資質・指導力チェックシートを活用して振り返り、話し合っていきます。
- ・ 保幼小接続期実践プランをもとに、園全体で接続期カリキュラムを見直したり、10の姿共有シート作成の学習会を行ったりすることもできます。
- ・ 園評価の手引きを活用し、重点目標から評価指標や取組指標の立て方を考え、効果的な園評価に向けて話し合うこともできます。

学習会

- ◆ 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく発達理解
- ◆ 一人一人に応じた環境構成や援助の在り方
- ◆ カリキュラム・マネジメントについて（指導計画の編成・実施・評価・改善、記録等）
- ◆ 特別支援教育・保育（個別の指導計画等の作成）
- ◆ 乳児保育や幼児保育についてのDVD視聴・協議
- ◆ 臨時・パート職員の方々の学習会



高知県の取組

～幼保支援課と教育センターとの連携～

(教育センターの研修体系)

基礎ステージ

中堅ステージ

管理職ステージ

新規採用
保育者

5年未満の
保育者

5～10年未満の
保育者

中堅保育者（10年以上）

主任・教頭等

所長・園長

基礎的知識
の習得
実践との
結びつけ

見通しを
もった
教育及び
保育の
実践

習得した知
識や技術の
活用
実践力の
向上

保育者モデルの確立
全園的な視野に立った
資質・指導力の習得

人材育成
園長の補佐
園の教育・保
育目標に向け
た取組の推進

園の経営方針の
立案
組織的な運営
地域や関係機関
等と連携した取
組の推進

ステージごとの研修内容

新規採用保育者研修
(7日)

保育者基礎研修 I～III期
(各6日)

中堅教諭等資質向上研修
(7日)

ミドル保育者研修
1年次(6日)
2年次(5日)

ミドル保育者
フォローアップ
研修発展コース
(6日)

ミドル
リーダー
実践研究会
(3日)

主任保育士・
幼稚園教頭等研修
I～III期(全6日)

所長・園長研修 I～III期
(全6日)

新規採用保育者研修及び
保育者基礎研修 Iに係る
所長・園長研修(半日)

ミドル保育者研修に
係る所長・園長研修
(半日)

<専門研修>

・校種間連携 ・乳幼児教育 ・家庭支援 ・特別支援教育 ・保育技術

園内研修支援

<キャリアアップ研修>

学び続ける保育者を目指して

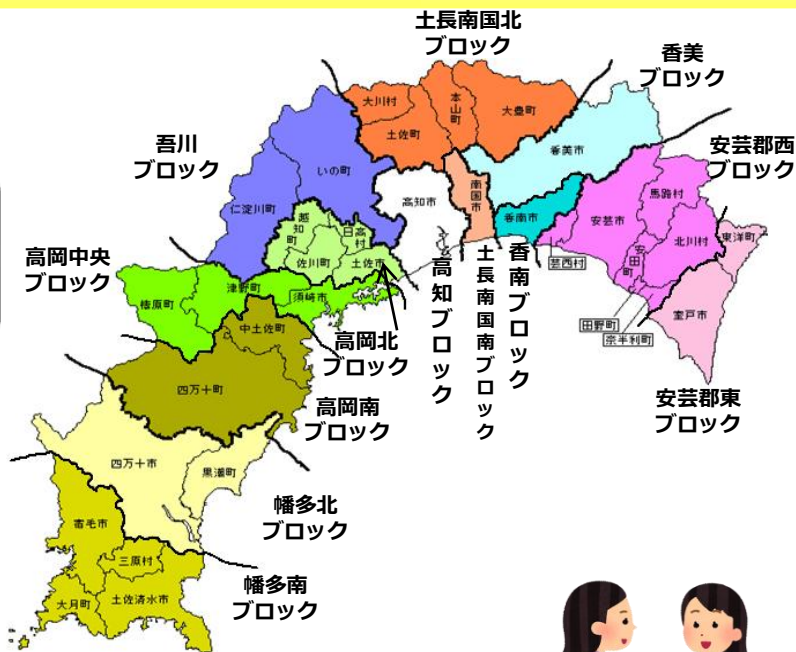
◆ ブロック別研修支援

事業概要

ブロック内における主体的な実践研修のためのネットワーク化の推進と、園内研修の企画・立案・運営を行うミドルリーダーを育成するために、県内13ブロックにおける「ブロック別研修会」を開催する。

期待される効果

ブロック内における主体的な園内研修体制が進み、組織的・計画的な教育・保育に取り組むことにより、教育・保育の質の向上を図ることができる。



実施内容

幼保支援課による支援
 ・園内研修支援（研修の工夫） ・各市町村との連携・研修会当日の運営支援等



令和3年度末

令和4年度
 実施園の決定
 (R3年12月)
 市町村における
 実施園の決定
 13ブロック交流会

令和4年度

②ブロック別研修
 終了園
 組織的・計画的な
 園内研修の継続
 ・研修目標及び年間計
 画の作成
 ・研修計画に基づく実
 践、研修の反省と評
 価

令和2年度

令和3年度実施園の決定 (R2年12月)

市町村における実施園の決定
 (13ブロック・13園)

13ブロック交流会 (R3年2月)

■対象・内容

①1年目実施園

R2年度実施内容説明

②2年目実施園

実践交流及びR3年度実施
 内容説明

令和3年度

①1年目実施園 (13ブロック・13園)

組織的・計画的な園内研修の実施

- ・研修目標及び年間計画の作成
- ・研修計画に基づく実践 (年間7回程度)
- ・公開保育 (各地域の保育者等およびミドル1・2年次受講者対象)
- ・研修の反省と評価 (次年度に向けて)

②2年目実施園 (13ブロック・13園)

組織的・計画的な園内研修の実施

- ・研修目標及び年間計画の作成
- ・研修計画に基づく実践 (年間2～3回程度)
- ・公開園内研修 (ミドル発展コース受講者対象)
- ・研修の反省と評価

ブロック内の
 幼稚園・保育所等

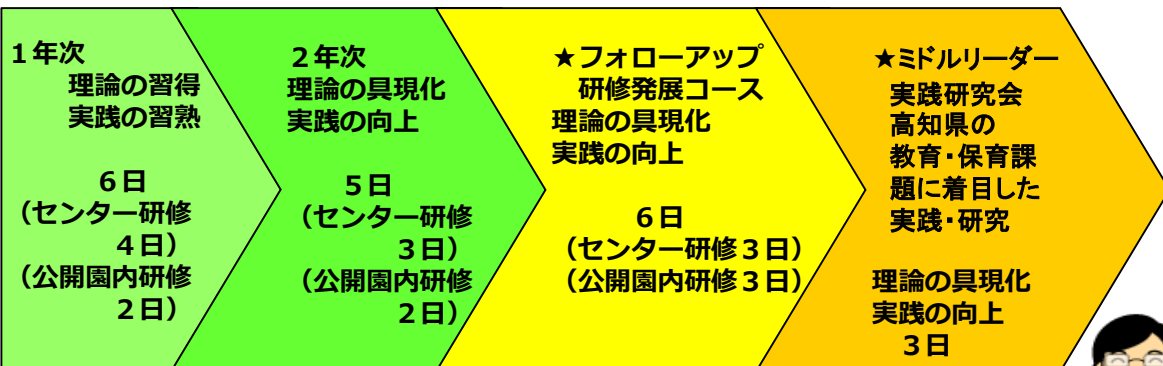
- ・公開保育、研究協議
 への積極的な参加
- ・ブロック内のミドル
 リーダーの研修参加

◆ 園内研修の中核となるミドルリーダーの育成

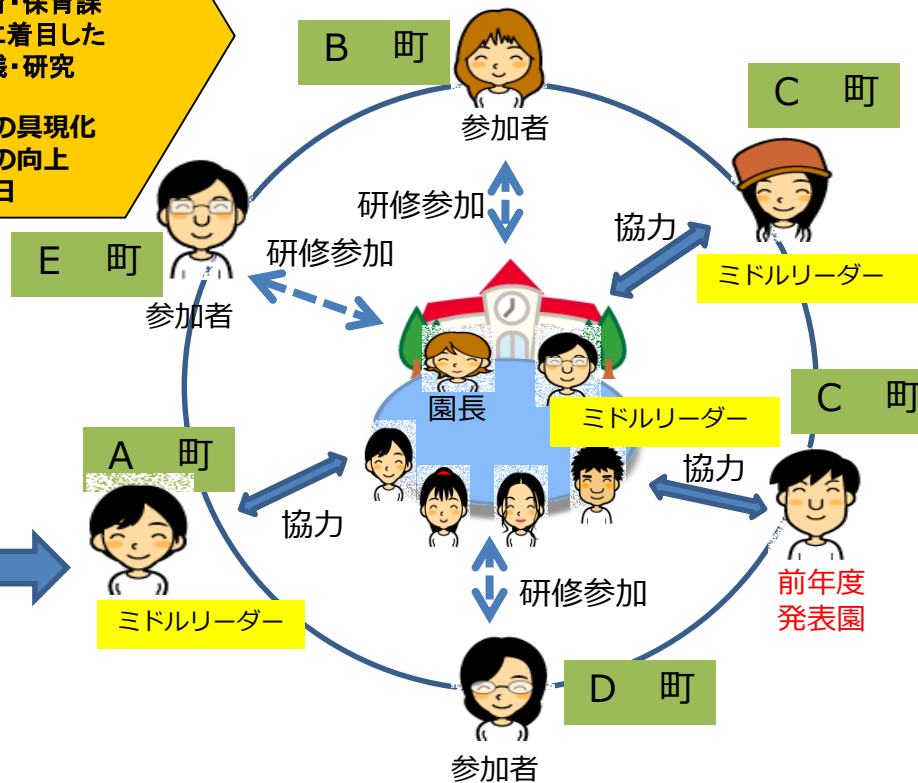
ミドル保育者研修
高知県教育センター

連携

ブロック別研修支援
(県内13ブロック) 高知県幼保支援課



【ブロック内でのネットワーク】



園内研修の充実とともに、園のミドルリーダーが地域のリーダーに育つ

地域全体で保育の質が上がっていく

◆ 園内研修支援の様子

事前に配付する
メモ用紙

（ ）ブロック：（ ）保育園 期（ ）園内研修
昭和 年 月 日（ ）

【研修目的】自ら考え行動する力を育てるために、子どもが遊び込む環境構成や保育者の
意識について
下記3点を中心とした視点で話し合いを行います。メモを取りながら、保育を見下ろし、
観察する

① 保育の入り口（扉）に挨拶・後向きを促す。視線に合わせた声かけ
目的の遊びを提案して子どもが遊び込む環境を整える
（※保育者が子どもを促している様子）

② その場に合った環境構成（園の環境・材料・もの）と保育者の関係【本色】

③ 保育の発展につなげるためのプラスしたい環境構成と関係
（自主活動や自由遊びの場づくり、保育者の関わり方、環境を整えることで保育の質を向上させること）



公開保育9:30～11:30
事前に保育を見る視点（協議の
視点）を話し合っておきます。

グループ協議13:00～14:45
事前に確認している視点に沿っ
て意見を出し合っていきます。



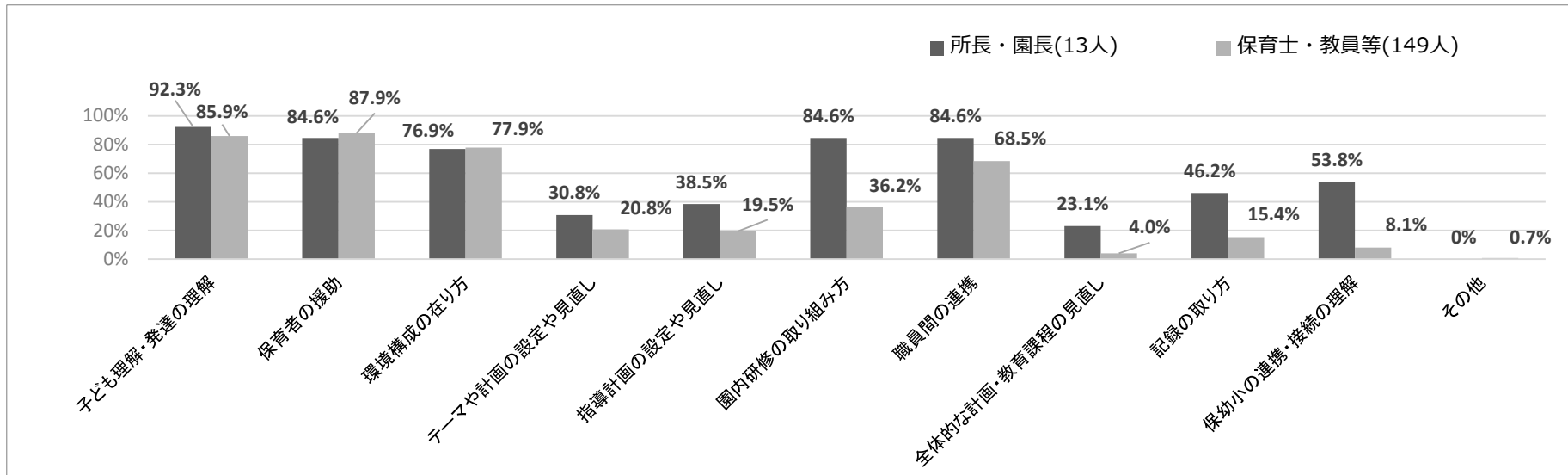
報告15:00～15:20
協議に参加できなかった
臨時やパートの職員に集
まってもらい、今日の保育
や協議の内容を報告し、園
として共有していきたいこ
となどを報告します。

保育者のよさを認めなが
ら、明日からの保育に向
けて取り入れていきたい
環境構成や援助を出し合
います。



ブロック別研修支援後のアンケート調査より（R1）

Q 1年間の研修を実施したことで、専門職として具体的に改善・向上したことはどのようなことだと思いますか。〈複数回答〉



Q 1年間の研修を実施したことで、専門職として具体的に改善・向上したことはどのようなことだと思いますか。〈記述〉

〈所長・園長〉

- ・子どもの内面を多面的に捉えることや自分と違う見方や考え方に気付くことができ、子ども理解が深まった。
- ・子ども一人一人を理解して指導案や記録を書くことの大切さを学んだ。
- ・お互いの保育室を見合ったり保育の話等をしたりするなどの職員間でコミュニケーションが増え、連携が取れるようになった。
- ・小学校の先生も参加し、保幼小連携の視点に立って、取り組むべき点が共通認識された。

〈教員・保育士等〉

- ・根拠をもって子どもの内面を捉えることで、子どもの興味や発達段階に合った環境構成や援助ができた。
- ・事前に環境構成を十分行うことで、安心して子どもが友達と体を動かしたり、挑戦したりすることができた。
- ・子どもの思いを受容し、共感する言葉をかけることを意識し、関わりをもつことを心掛けた。 など

◎本研修の受講によって 園にどのような変化が見られましたか（R1）
 【所長・園長、受講者、同僚】 ※（ ）内は人数、複数回答可

	所長・園長	受講者	同僚
◆園内研修が充実してきた	<u>71.4%</u> (15)	23.8% (5)	33.3% (7)
◆ <u>子どものことについて話す機会が増えてきた</u>	<u>71.4%</u> (15)	<u>90.5%</u> (19)	<u>66.7%</u> (14)
◆園の保育について話し合う機会が増えた。	52.4% (11)	52.4% (11)	52.4% (11)
◆保育者の仲間意識が高まった。	28.6% (6)	33.3% (7)	33.3% (7)
◆その他	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの家庭環境などについて共通認識を持てた。（同僚保育者） ・子ども理解の視点が広がり、保育の上で役立った。（受講者） ・職員が園内研修に取り組もうとする姿勢をもちやすくなった（受講者） 		
			など

【本研修の成果について】 自由記述

- ・研修を受講することにより、本人はもとより、園全体の保育士のレベルアップにつながる。
- ・園内研修支援に来て下さったアドバイザーから多くのことを学んでいる。経験に基づいた助言をしてもらうことができ、明日からの実践にすぐに生かしていこうと思う。
- ・研修を受けたことで本人も自信がつき、実力もついてきたので、こうした研修はありがたい。
- ・研修に参加する度に、保育者として成長していることが目に見えて分かる。意欲的に希望する研修に参加する利点を実感でき、ありがたく思う。
- ・ミドル研修が定着してきており、自園での研修でみんなが積極的に発言することに慣れてきた。若い職員にも意見を出せる雰囲気も出てきている。
- ・園内研修の協議の仕方や子どもの捉え方など、参考になった。
- ・組織の一人としての役割を考えることができた。 など

【園内研修支援の課題について】

- ・市町村や園により、学びの蓄積に格差があるため、事前の聞き取り等により、現状に応じた研修内容を検討する力が必要である。
- ・管理職の世代交代や若年層の保育者の増加により、組織としての質の向上が求められる。園とアドバイザー等のマッチングを丁寧に行い、園の課題に応じた支援ができるようにしていく必要がある。

各小学校・園で作成する実践プランのイメージ

幼稚園・保育所等

- ・ 5歳児後半の年間指導計画の編成
- ・ 幼児と児童の交流計画の作成

小学校

- ・ スタートカリキュラムの編成
- ・ 幼児と児童の交流計画の作成

10の姿共有シート
要録、就学時引継ぎシート などの活用

※幼稚園・保育所等と小学校がそれぞれ作成したものを冊子にまとめる必要はありません。

市町村教育委員会・保育主管課

- ・ 連携する幼稚園・保育所等と小学校の整理
- ・ 研修会等の実施による作成内容の理解を深める場の設定
- ・ 幼稚園・保育所等、小学校における作成状況の把握

高知県 保幼小接続期 実践プラン

高知県教育委員会 平成30年2月

育のつながりイメージ
この実践プランは、幼稚園・保育所等と小学校がそれぞれ作成したものを冊子にまとめる必要はありません。

16

17

具体的な全体構成

1 保幼小接続が求められる背景

- 幼児教育関連の国の動き
- 学校教育全体を通じて育む資質・能力と乳幼児期の教育及び保育との関連性
- 高知県の目指す子ども像

2 幼児期から児童期への教育の接続

- 幼児期の発達の特性と幼児期に育みたい子どもの姿
- 幼児期の終わりまでに育ててほしい姿
- 幼児期の学びから児童期の学びへの接続

3 保幼小接続期実践プランの作成と活用

- 各保育所等と小学校における実践プランの作成
- 各保育所等と小学校をつなぐ交流・連携の取組

4 子どもの生活と学びをつなぐー接続期カリキュラムー

- 保育所等での作成（5歳児後半の年間指導計画）
- 保育所等と小学校が子どもの発達を共有するためのイメージ・補助シート
- 小学校での作成（スタートカリキュラム）

5 保幼小の教職員をつなぐー保幼小の教職員の交流・連携ー

- 職員同士の交流・研修会の内容・方法等

6 幼児と児童をつなぐー幼児と児童の交流ー

- 幼児と児童の交流のポイント

7 保護者をつなぐー親育ち支援ー

- 保護者との連携の取組と効果

平成30年2月策定、3月配付

小学校及び幼稚園・保育所等の教職員
→市町村の各校区における
接続期カリキュラムの作成・実施へ

★実践プラン説明会・研修会の実施

★市町村保幼小連携研修等の支援

市町村教育委員会等との連携による保幼小連携・接続

(1) 接続期カリキュラム (スタートカリキュラムや5歳児後半の年間指導計画) の **実施・見直し・改善**

(作成・実践後の振り返りや改善による取組の継続・充実)

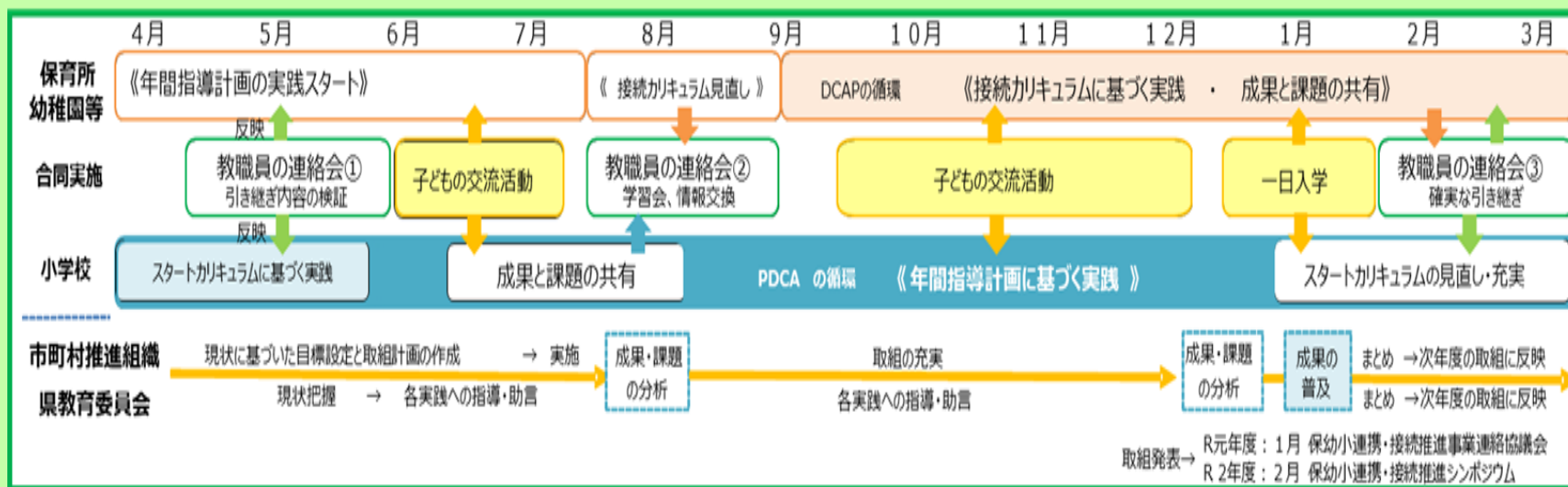
(2) 幼児・児童の交流活動 (年間3回) **ねらいをもって**

- ・ 1日入学などの実施

(行事に偏らない、学習や遊びでの活動)

(3) 教職員の連絡会等 (年間3回) **子どもの姿を通して**

- ・ 引き継ぎ内容の検証・学習会等・就学に向けた引き継ぎ (園全体・学校全体で関わる組織的な連携)



◆ 保幼小連携・接続に関する研修会



講師からスタートカリキュラム作成の方法について学ぶ
全学年の担任が参加し、カリキュラム作成に関わります。



近隣の園の5歳児担任等が集まり、小学校就学を意識した5歳児後半の年間指導計画の確認や見直しを図ります。



保幼小合同研修会の開催

- ・市の5歳児担任と1年生担任が集まり、一緒にスタートカリキュラムの見直しを図ります。
- ・アドバイザーからも助言をもらいます。
- ・育みたい資質・能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識し話し合いをします。



◆ 保幼小連携・接続に関する研修会

【演習】遊びのなかの学び

DVD 年長の遊びの姿から

保育を見る視点

- ① 友達や保育者との関わりの中で、思いを伝え合ったり、考えたり、試したりして遊ぶ姿
※自ら周り（もの・人など）に働きかけている一人一人の姿を意識して、具体的な姿を記録しましょう。
- ② ①の姿から、どのような力が育とうとしているでしょう

【演習】遊びのなかの学び（育っている力でカテゴリー分けする）

自分なりに工夫して作る

- ① 草花を自分で摘んできて、すり鉢でこすりながら～して遊ぶ姿
- ② 何度も試しながら、自分の力でやりきろうとする力

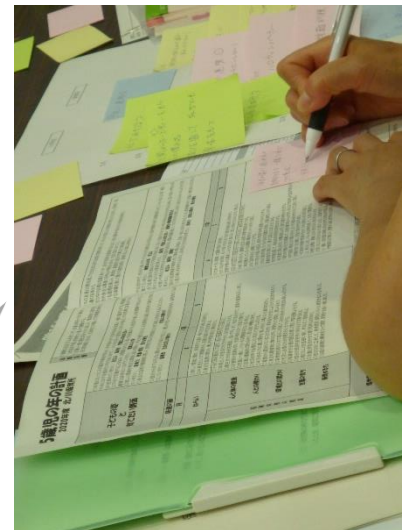
言葉による伝え合い

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のどの姿につながるかを考え、番号を書き入れる。



幼稚園の教員等が小学校の教員と一緒に、生活科の教科書も活用しながら、幼児の育ちのつながりを共有します。

5歳児後半の年間指導計画を見直ししながら、小学校との交流会に生かせる経験を、小学校教員と検討していきます。



高知県の取組 ～保幼小接続期実践プラン モデル地域（田野町）の取組～

研修主題：主体的に学び、自分の考えを伝え合う幼児・児童の育成

研究主題の背景：幼児・児童の主体的な学びを重視する教育活動を展開し、自分の考えに自信をもち、他者の考えと比べながら伝え合い、自分の考えを深められる幼児・児童を育てたいと考えた。

【目指す子ども像】

○幼稚園

- 3歳児 自分の思いを表わそうとする子
- 4歳児 自分の思いを分かるように伝え、友達の思いも分かろうとする子
- 5歳児 自分の思いを素直に話し、相手の話も理解しようとする子

○小学校

- 低学年 自分の考えをもち、言葉で伝え合える子
- 中学年 伝え合いを通して、自分の考えを深められる子
- 高学年 伝え合いを通して、自分の考えを深め、発展させられる子

【接続期カリキュラムの見直しの流れ】

★1年目

- 4月：スタートカリキュラムの実施
- 10月：5歳児後半の年間指導計画にそった実施
- 10月：スタートカリキュラム考え方・見直し方研修
- 2月：田野町の目指す子供像の見直し
- 3月：スタートカリキュラムの見直し

★2年目

- 4月：スタートカリキュラムの実施
- 5月：接続期カリキュラム振り返り
- 8月：幼小連携の在り方研修
- 8月：スタートカリキュラムの見直し
- 10月：5歳児後半の年間指導計画の見直しと実施

【接続期カリキュラムの取組】

- ア 公開保育・授業の参観方法の工夫
(ア) 時間差参観による小学校全教員の公開保育参観
- イ 幼小協同しての見直し
(ア) 校種別振り返り
(イ) 各校種カリキュラムの合同見直し
- ウ 講師招聘による理論研修への全教員参加

接続期カリキュラムの見直しの取組（幼小協同での見直し）

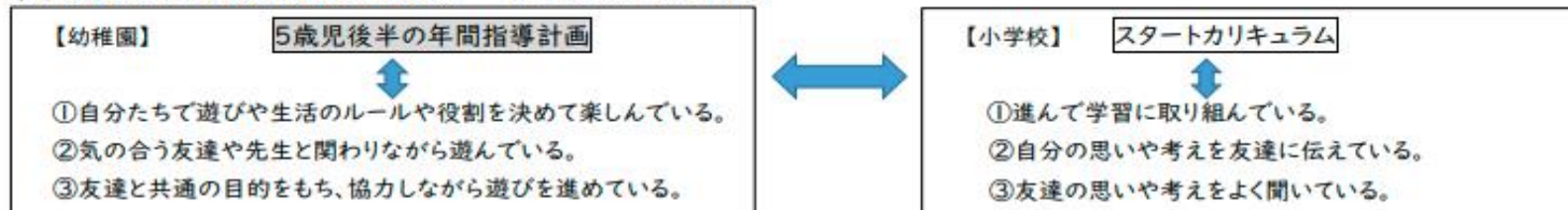
幼小連携・接続推進支援事業 研究目標

「主体的に学び、自分の考えを伝え合う幼児・児童の育成」

【資料1】

【5歳児後半の年間指導計画】

◇接続期カリキュラム振り返りの視点 令和2年5月27日（水）



1. それぞれのカリキュラムの内容が、目指す姿の育成に資するものであったか。
2. 互いのカリキュラムが、スムーズな接続に資するものであったか。
 - 幼) 入学後の環境の変化に対応できる力が育つものであったか。
 - 小) 幼稚園での育ちをうまく生かし、小学校での学びにつなぐことができているか。

青：成果

赤：課題

黄：改善点

<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや生活を通して、主体性が育まれるような活動を計画して保育することができていた。 ・目指す姿の育成につながる内容は書かれている。 ・グループ及び気の合う友達との活動や遊びを意識して取り入れていた。 	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自由に発言できる場での経験が多いので、クラスとしての主体性を育む活動の在り方を想定してはどうか。 ②グループ活動の中では、まだ気の合う友達の中での話合いから始めてみてはどうか。 	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ①朝の会や帰りの会などで、自己表現の場を設定する。 ②良さを受け止めること、共有すること、モデルを示すことの3点を意識して援助する。 ②聞く力だけに注目するのではなく、聞きたくなる話し方を意識する。
<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園外保育の回数を意識して取り入れたことで、小学校の環境に慣れている子供が多いという意見を聞くことができた。 ・当番や各行事での役割ごとのグループ等に分かれた話合いを取り入れ、“伝える、聞く、考える”ことができた。 ・グループになって行う活動では、何をするかを明確にしていたことや、何度もして経験があったことで楽しんでできていた。 	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ①3学期になると、忙しさに追われて十分時間の確保ができなくなることもある。 ②カリキュラムに交流について詳しく書かれていない。 ③学習でのグループ活動となると、全体指示だけでは何を話したらよいか分からず進むことも多いのではないか。 ④3学期の内容は、もっと具体的にどのような姿が見られているか、どのような教材を通して田野幼稚園で育てていけるかを書いてはどうか。 	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ①行事予定に交流活動の打合せと振り返りの日程も組みこむようにする。打合せと振り返りの回数を明確にする。 ①先生（小）も忙しいと思うが、5・10分間わりをもってもらえるようにする。 ②カリキュラムに交流活動について具体的に記入する。 ③話合いの仕方を具体的に伝えるようにする。 ④子供が生活や遊びの場面から経験してきたことについて、幼稚園から小学校へ引き継ぎ時に伝えるようにする。 ④1年生で課題に感じる姿を知ることで、どのような援助や環境構成を行えばよいか想定できるようにする。

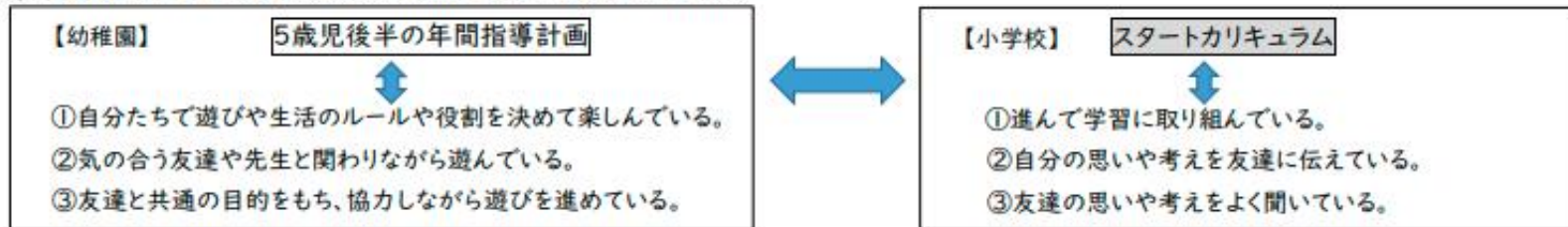
接続期カリキュラムの見直しの取組（幼小協同での見直し）

【資料2】

幼小連携・接続推進支援事業 研究目標
「主体的に学び、自分の考えを伝え合う幼児・児童の育成」

【スタートカリキュラム】

◇接続期カリキュラム振り返りの視点 令和2年5月27日（水）



- それぞれのカリキュラムの内容が、目指す姿の育成に資するものであったか。
- 互いのカリキュラムが、スムーズな接続に資するものであったか。
 - 幼) 入学後の環境の変化に対応できる力が育つものであったか。
 - 小) 幼稚園での育ちをうまく生かし、小学校での学びにつなぐことができているか。

青：成果

赤：課題

黄：改善点

<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の環境を取り入れた教室環境が、スムーズな学校生活への慣れにつながっている。 ・学校探検など総合的な学習が、調べる、作る、かくなど、教科学習への意欲付けとなっている。 ・校内を巡り、環境を知ることが安心感につながっている。 ・教員や他学年（特に6年生）との交流が安心感につながり、知っている人が増える喜びを感じている。 ・給食での指導がしっかりとできてよかった。 	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の自由な時間の扱いが難しい。どこまで自由にするか。 ・学校のルールやきまり、例えば、廊下を走らない、他教室へ入らないなどを知らないことが多い。スタカリでは言わずに姿で見せるはずだったが。（生活のルール） 	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上級生が望ましい姿を示す。例えば、外で遊んだときは、上級生が先に帰るので、教室へ戻ることができる。
<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園での活動や児童の意見を取り入れるように努めたことにより、幼稚園での経験を生かして学校生活をおくっている様子が見られる。 ・幼稚園との交流が増えることで、幼児への関わり方、支援の仕方等参考になった。 ・環境の変化に対応できた。（幼稚園で培った思考力・食育：配膳・食べ方・食べ残し） 	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す・聞く姿勢を整えるなど、小学校での学習規律の定着がややゆるやか。（学習規律） ・座卓を置くには教室のスペースが足りなかった。（環境） ・歌を歌うことがあまりできなかった。（コロナ） 	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段差はゆるやかに、切り替えるときははっきりと、メリハリをつけるには、「小学校ではこうする」を明示する。



接続期カリキュラムの見直しの取組

【8月 スタートカリキュラム見直し】

スタートカリキュラム		2020.4	
ることをしよう)			
水)	3日目 (4/9 木)	4日目 (4/10金)	
30)	下校指導 (13:30) 給食開始	下校指導 (13:30) 難力検査	
トルをロッカーに入れて、校舎内や校庭で好きな遊び (座卓を準備 定しておく。6年生の補助あり。のびのび体操は、強制しない。 室に入るように促す。)			
		絵本の読み聞かせ 校長	
みんなで集まって キドキドン1年生、とべたんぼ)・手遊び ♡			
スタート かな? ♡	学級会	生活班づくり 幼稚園でのグル ープ作りの経験を活 かし、自分たちで 決めてみる ♡	健康 みみのけんさ
	生活	♡	ひとりのできるよ 体操服に着替え、た たむ
線あ で 遊 です。 しま ♡	国語	かいてみよう自分 の名前	体育 外に出てみよう ならびっこ 遊具あそび
	生活	保健室の先生こんにちは 養護教諭の紹介 保健室の使い方	体育 開通

・のびのび体操はする。見る→す
る。

・6年生の補助もあるので、のび
のび体操を行ったらどうか。

・のびのび体操を時程に入れる。

・校時表の徹底。保護者にも協力
願う。のびのび体操が始まる10分
前には教室に到着する。

・幼稚園の取組として、3学期は
学校の校時表を意識する。

・どうして参加しないのか、子供
の気持ちを探る。(様子を見る・
声をかける)

・のびのび体操をする意味が子供
に伝わるようにしつつ、楽しんで
みんなが参加する時間として行う。

○自由時間の扱い。

・できることを選択させる。

【10月 5歳児後半の年間指導計画見直し】

三学期		
1	2	3
◎友達の存在を認めながら、協力して遊びや生活を進め、充実感を味わう。 ◎自分の思ったことや感じたことを豊かに表現し、いろいろな活動に楽しんで取り組み、 成長を喜び合う。 ◎身近な自然事象や社会事象とふれあい、生活に関係の深いさまざまな事物や事象への興 味や関心をもつ。 ◎就学への期待をもち、自信をもって生活する。		
◆正しい姿勢に関心をもち、自分で気を付ける。①②		
グループ作りではどんなことを	度、健康な生活	1～3月の内容をより詳しく書く
していたのかということ	いろいろな運	☆朝の流れ 一日の流れ
	集団遊びを楽	☆歌
◆クラスやグループの中で、役割を受けもち、目的		
◆友達の良さに気付き、協力して遊びを発展させる		
◆生活を共にしてきた友達や異年齢児等、身近な人々との心を通わせ感謝する気持ちをもつ。⑤		
◆入学への喜びや期待を膨らませ、成長の自覚をもつ		
◆冬の身近な事象に関心をもち、それを取り入れて遊		
に気付いたりする。⑥⑦		
◆身近な器具や玩具のしくみに興味をもち、考えたり試		
◆自分たちの生活の場をみんなで協力して美しく飾った		
③④⑩		
◆いろいろな体験を通じて、イメージを膨らませ、感動		
◆友達との対話を通し、気持ちの伝わっていく心地よ		
◆生活の中でリズムカルな言葉を使ったり、言葉の楽		
◆日常生活に必要な標識や文字等に関心をもち、日常		
◆材料や用具を目的に合わせて選び、伸び伸びと表現		
◆音楽に親しみ、感じたこと、考えたこと等を音や言		

「研修で学んだこと」の変容



8月

- 幼) 小学校で取り組んでいることが分かり、幼稚園から小学校への進学で先生も子供も感じているギャップを知ることができた。
- 小) スタカリを幼小全教員が知っていることの大切さを改めて感じた。幼稚園での取組を生かしていけるところはないか、また小学校に向けて幼稚園に取り組んでもらえることはないか共有できた。

カリキュラム
共有の必要性

10月

- 幼) 幼稚園でできていたり体験していたりすることが、小学校入学後には、初めて行うこととして捉えられていることもあったので、カリキュラムの見直しを行い、意見を出してもらえたことで、小学校の取組につなげる意識付けができた。
- 小) 5歳児後半の年間指導計画を一人で読んだだけでは分かりにくい部分があったが、幼稚園の先生と話すことで具体的にイメージできた。お互いに知ることが大切だと思う。

話し合い継続の
必要性

11月

- 幼) 園から小学校への引継・接続を考えるときに、年少から年長までの育ちに連続性があることも重要だと改めて考えた。
- 小) 年長児と1年生の間だけではなく、全ての接続において連続性や一貫性のある学びが大切である。

学びの連続性
の重要性

接続期カリキュラムの見直し 成果（○）と課題（●）

- 幼児・児童の実態や環境についての共通理解の深まり
- 相互の生活や学びを生かす改善策の提案
- 育成したい資質・能力についての共通理解の深まり
- 連携の意義の実感と改善サイクルの確立

- 発達や学びの連続性についての理解
- 小学校における学年間の連携を意識した教育実践
- 田野町の子供たちの課題の共有と課題解決に向けたカリキュラムの創造

■ 保護者（家庭）との連携の充実に向けた取組とその効果

園と小学校と保護者のつながり

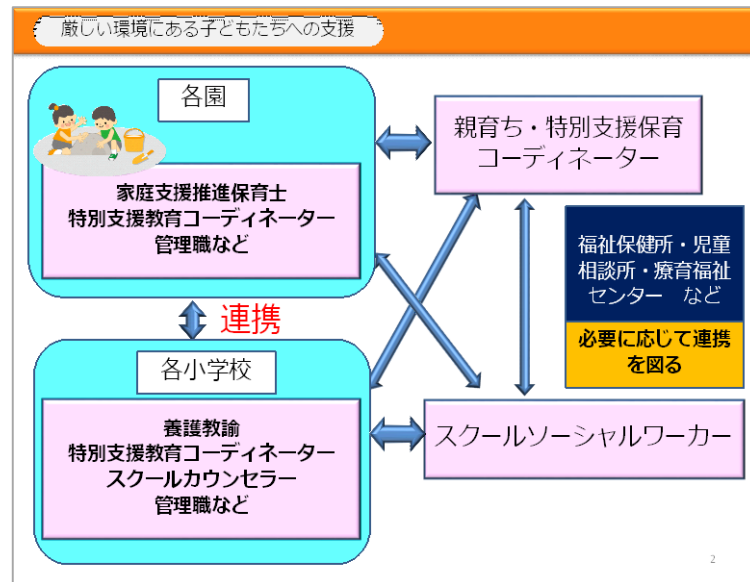
- 効果
- ・保護者の安心感につながる
 - ・入学前に実際に保護者と話すことで、小学校側の保護者理解につながる

保護者同士のつながり

- 効果
- ・相互に情報交換できたり話を聞いてもらいながら支え合ったりすることで、子育てや就学に向けての不安が解消されやすい

厳しい環境にある子どもたちの保護者を支えるつながり

- 効果
- ・支援を必要とする家庭を入学前に把握し、支援の仕方を共有することで、子どもや保護者に一貫した関わりをすることができる



教育・保育の質の向上をめざして

できた仕組みが幼稚園・認定こども園等に活用され、各園の実践の質向上につなげられるようにする。

組織力 実践力の向上

ガイドラインを活用した保育の見直し・充実

園評価の手引きを活用した各園の園評価の見直し・充実

園内研修の
充実・拡大

人材育成 研修の充実

キャリアステージ研修の内容充実

専門研修の内容充実

園内研修の
充実・拡大

小学校への円滑な接続へ

